● 読書感想文コンクール　中学校の部 ●

教育長賞

永井　真依（ながい　まい）　帝京八王子中　２年生

作品名:「きみの友だち」を読んで
図　書:きみの友だち

本屋さんで何万冊と並んでいる本の中で、ふと目にとまったのが『きみの友だち』でした。表紙に「友達ってなんだろう」と書いてあり、友達との付き合い方に悩んでいた私には、この言葉に深い興味を持ちました。自分らしく友達と付き合っていくにはどうすればいいのか、答えを教えてくれるのではないかと少しだけ期待する気持ちもありこの本を選びました。

この本に出てくる主人公たちも皆、友達についての悩みを抱えています。

ある出来事から友達を憎み、周りの誰にでも冷たく接する子、親友が中学生になってから遠い存在になってしまったと感じてしまう子、過去のいじめられた経験から本当の自分を出せなくなっている子、自分の意見が言えず友達にいつも合わせてしまう子。

私には、どの子の気持ちも少しわかる気がしました。

私には小学校の頃からの親友がいます。別々の中学校になってしまい、あまり会う時間がなくなってしまいましたが、会えた時には色々な話をして楽しい時間を過ごすことができます。その親友には気を使うこともなく、ありのままの自分を出すことができます。良い事も悪い事も間違っている事もお互い言い合うことができます。本当にすばらしい友達だと思います。でも中学校生活では、女子の人数が少ないということと、あと五年近く一緒に過ごさなくてはいけないんだと思う気持ちからか、私自身のもめ事を嫌う気持ちからか、嫌な言葉を言われても気にしないようにしようとか、この子はこういうことで怒るから私が折れて合わせればいいやとか、言いたいことも言えず我慢してしまう自分がいます。時々ストレスがたまりすぎて「もーやだー」と大声で叫びたくなる時もあります。

さまざまな性格の人達が共同生活していく学校という場所では、もめ事が一つもないなんて絶対ないと思うし、誰もが少なからず友達についての悩みはあると思います。

この本の中に「言葉はバンソウコウ」、「言葉はナイフ」という文章がありました。私はとても良い言葉だと思いました。悪気があって言った言葉ではなくても取る側の人には傷つく言葉であったり、辛い時にかけてあげる一つの言葉で傷をいやしてくれたり。言葉の大切さを強く感じました。そして私自身、友達に対してどのような言葉をかけているかなと考えさせられました。何かに傷ついている人には優しい一言を言ってあげられる自分になりたいと心から思いました。それと同時に人に何かを言う時には十分に言葉に気をつけようとも思いました。

言葉の話で、少し前に学校の先生が「幸せになれる七つの言葉」を教えてくれました。うれしい、楽しい、幸せ、大好き、愛している、ありがとう、ツイている、です。たとえ話で、「運転中、前にとろい車がいてムカツクとイライラするのではなく、ツイてると思うようにするんだよ。」と教えてくれました。それから私は部屋のコルクボードにこの言葉の紙をはり、何かある度にこの言葉を思い出し自分の心を落ち着かせています。言葉ってやっぱりとても大事なんだと思います。

私はこの本を読んで、人としての思いやり、優しさ、言葉の大切さを再認識することができました。友達がいるから楽しく笑顔で過ごせるんだ、勉強や部活を頑張ることができるんだと思いました。そして私は我慢して合わせているのではなく、意見や思っていることを少しだけでも言うことができる強い自分になることが必要だと思いました。これからも人に優しく思いやりを持って接していこうと思います。

言葉の大切さを忘れずに。